

資 料

- ・ 柏野学区の防災まちづくりに関する住民アンケート調査結果
- ・ 防災まちづくりに関するアンケート報告会のまとめ
- ・ 柏野学区防災まちづくり 基本方針の実現に向けた取組の進め方の整理

柏野学区の防災まちづくりに関する 住民アンケート調査結果（単純集計）

■期間：平成28年10月14日（金）～10月31日（月）

■配布・回収：町内会を通じた直接配布・回収

■配布数：町内会加入世帯：1,199通

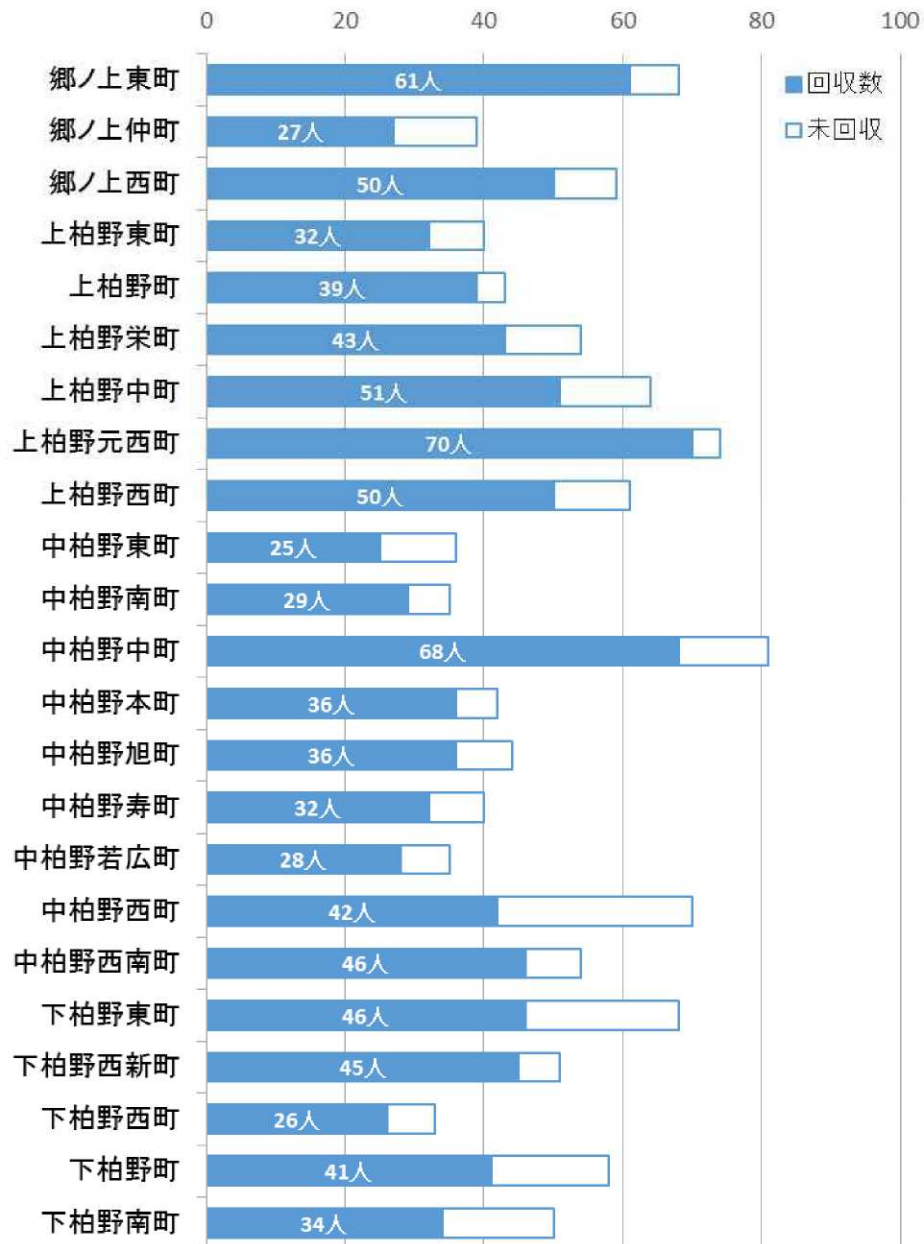
■回収数：978通（回収率：約82%）

■有効回答数：957通（有効回答率：約80%）

🍏 はじめに、あなた自身のことについて、お答えください。

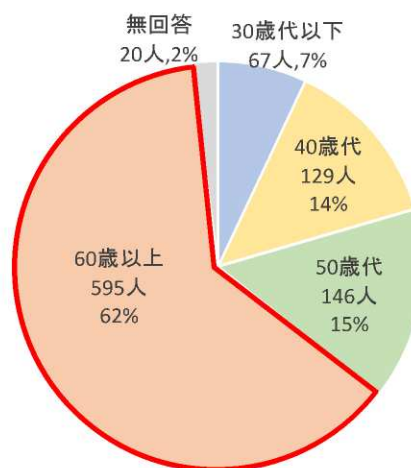
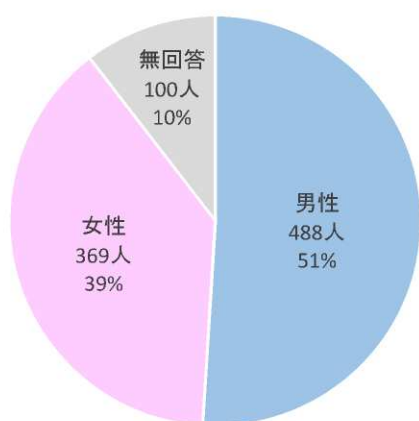
問1 あなたがお住まいの町内会名

- ・町内会別の回収状況・件数はグラフのとおりとなっている。
- ・いずれの町内会とも高い回収率であり、最大は上柏野元西町の約 95%となっている。



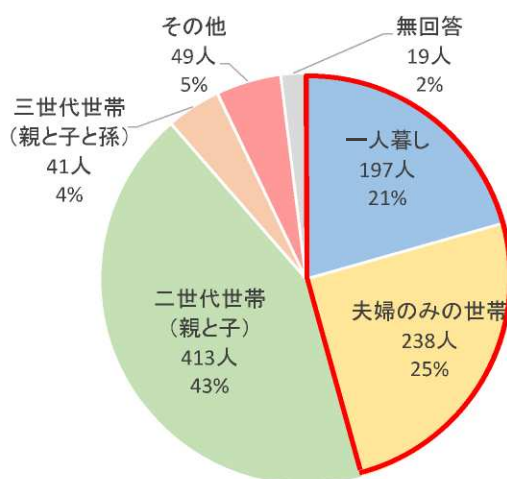
問2 あなたの性別・年代

- ・性別では、男性が51%、女性が39%となっている。
- ・年齢は、60歳以上が62%で全体の約6割を占めており、30歳代以下の若い年代は、全体の1割以下となっている。



問3 あなたの世帯構成

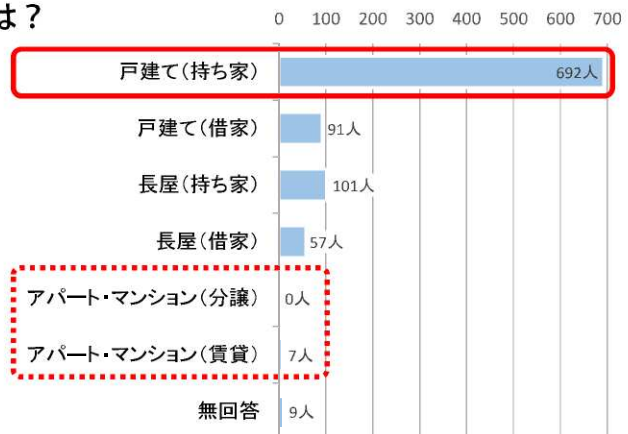
- ・「一人暮らし」が21%、「夫婦のみ世帯」が25%となっており、両者で全体の約5割を占めている。



🍏 あなたのお住まいについてお答えください。

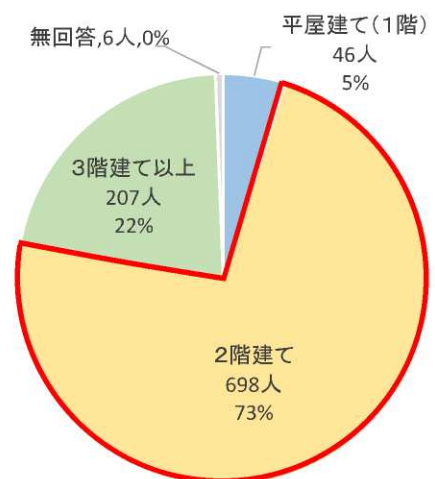
問4 あなたがお住まいの家のタイプは？

- ・「戸建て（持ち家）」が 692 人で、全体の 72%となっている。
- ・一方、「マンション・アパート」は、分譲、賃貸とも 7 人と少ない。



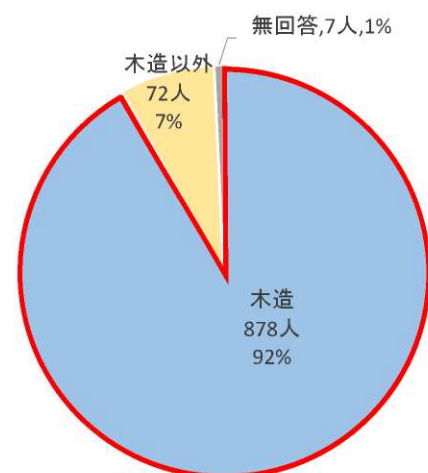
問5 あなたがお住まいの家の階数は？

- ・「2 階建て」が 698 人（73%）と多く、全体の 7 割を占めている。



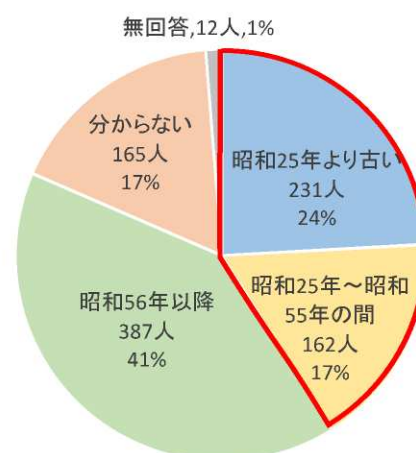
問6 あなたがお住まいの家の主要な構造は？

- ・「木造」が 878 人（92%）と多く、全体の 9 割を占めている。



問7 あなたがお住まいの家が建てられた時期はいつ頃ですか？

- ・「昭和56年～現在」が387人（41%）で最も多くなっているが、耐震基準が強化された昭和56年以前の建物が全体の約4割を占めている。



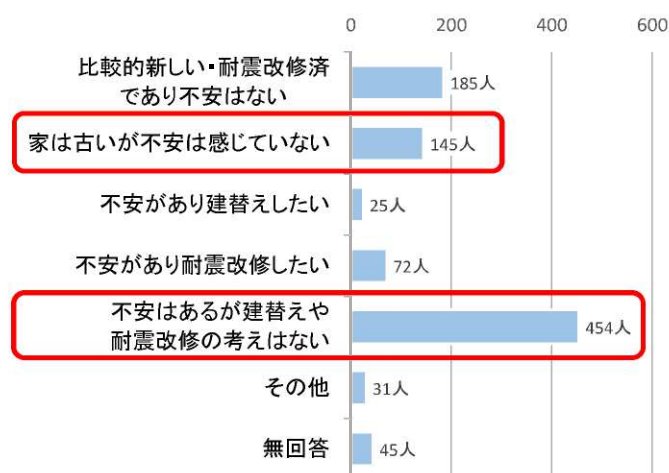
問8 あなたがお住まいの家について、地震に対する不安はありますか？

- ・「不安はない」が185人（19%）、「不安があり建替えや改修を考えている」は97人（10%）となっている。
- ・一方、「不安はあるが建替えや耐震改修の考えはない」が454人（47%）で最も多く、「家は古いが不安は感じていない」も145人（15%）と多い。

■「その他」の主な内容

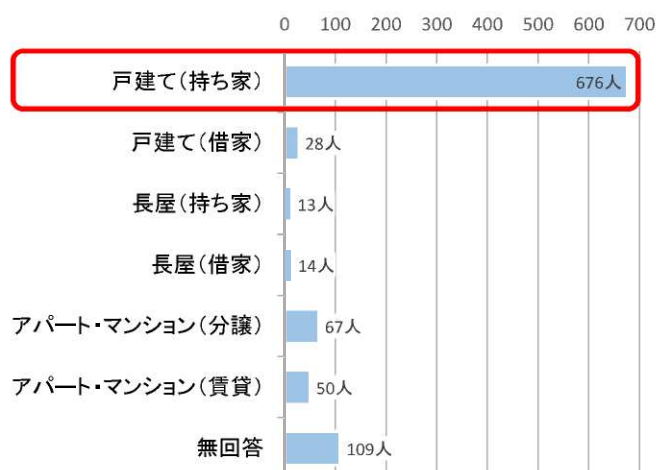
- ・耐震診断を受けてから考える
- ・借家のため自分では対策ができない
- ・経済的に建替え・耐震改修できない
- ・どう改修したらよいか分からない
- ・大地震が起きたら新しくても倒れる

※選択肢と重複した記述を除く。



問9 あなたが将来、家を建替える・住み替えるとした場合に望む家のタイプは？

- ・「戸建て（持ち家）」が676人（71%）で全体の7割を占めており、現状で「戸建て（持ち家）」に住んでいる人のほとんどが現在の居住形態を望んでいる。
- ・現状との比較では、「借家」や「長屋」が減少し、「アパート・マンション（分譲、賃貸）」が増加している。



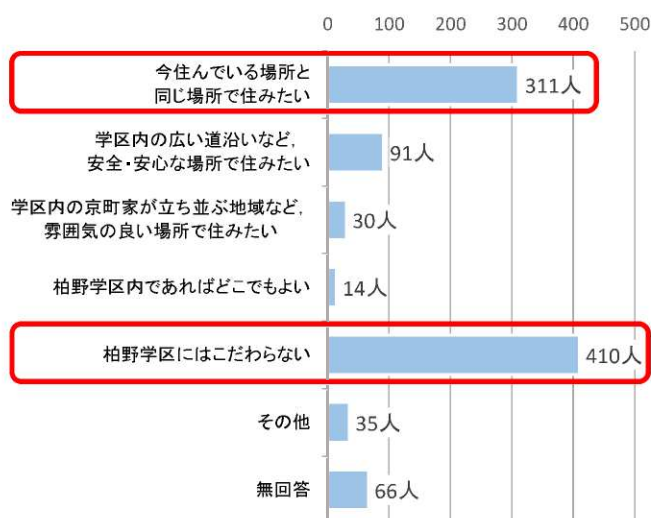
問 10 あなたは、将来、家を建替える・住み替えるとした場合、どこに住みたいとお考えですか？

・「柏野学区にはこだわらない」が 410 人（43%）で最も多く、次いで「今住んでいる場所と同じ場所で住みたい」が 311 人（32%）となっている。

■「その他」の主な内容

- ・学区外で安全・安心な場所
- ・道が広く、病院やお店に近い場所
- ・緑が豊かな場所、景色が良い場所
- ・学区外で通勤に便利な場所
- ・実家、出身地
- ・柏野学区以外

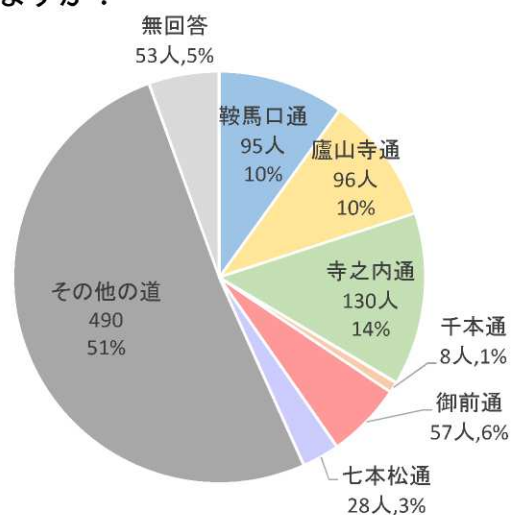
※選択肢と重複した記述を除く。



🍏 あなたがお住まいの家の前の道についてお答えください。

問 11 あなたがお住まいの家は何通りに面していますか？

・「その他の道」が 490 人（51%）で最も多く、次いで「寺之内通」の 130 人（14%）、鞍馬口通 95 人（10%）、蘆山寺通 96 人（10%）となっている。



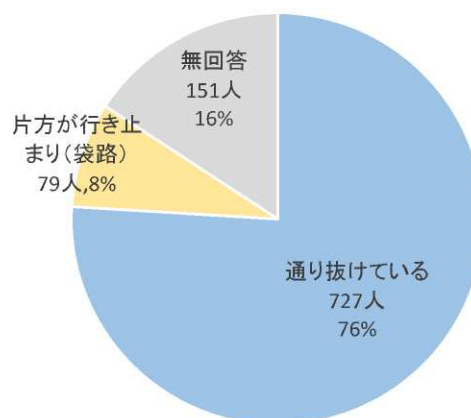
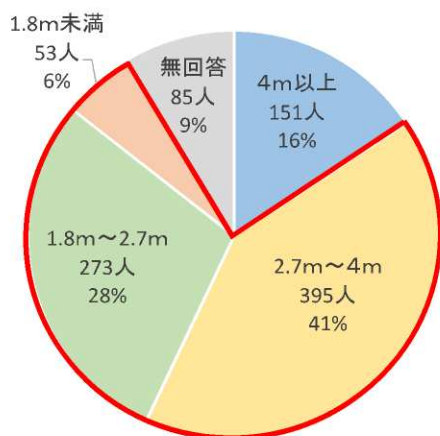
問 12 あなたがお住まいの家の前の道はどんな道ですか？

【幅員】

- ・「2.7m～4m」が 395 人（41%）で最も多く、「1.8m～2.7m」の 273 人（28%）と「1.8m未満」の 53 人（6%）を合わせると、全体の約 8 割を占める。

【通り抜けの有無】

- ・「通り抜けている」が 727 人で 76%を占め、「片方が行き止まり（袋路）」は 79 人（8%）となっている。



🍏 あなたのご町内の現状についてお答えください。

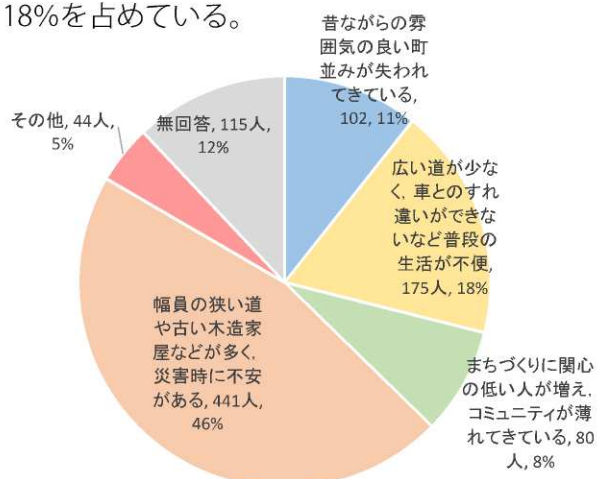
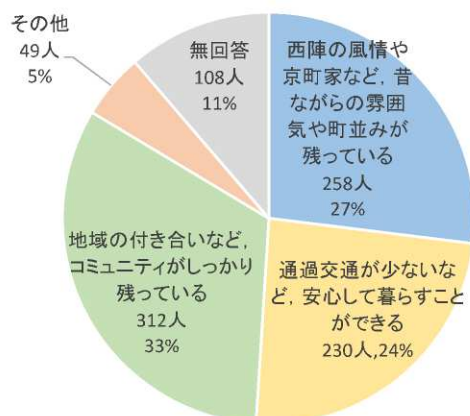
問 13 昨年に柏野学区で実施した「防災まちあるき」や「意見交換会」では、柏野学区の「魅力」と「課題」について、下の選択肢にあるような意見が出されました。あなたは、お住まいの町内の「魅力」と「課題」について、どのように感じていますか？

【町内の魅力】

- ・「地域の付き合いなど、コミュニティがしっかり残っている」が 312 人（33%）で最も多く、次いで「西陣の風情や京町家など、昔ながらの雰囲気や町並みが残っている」が 258 人（27%）となっている。

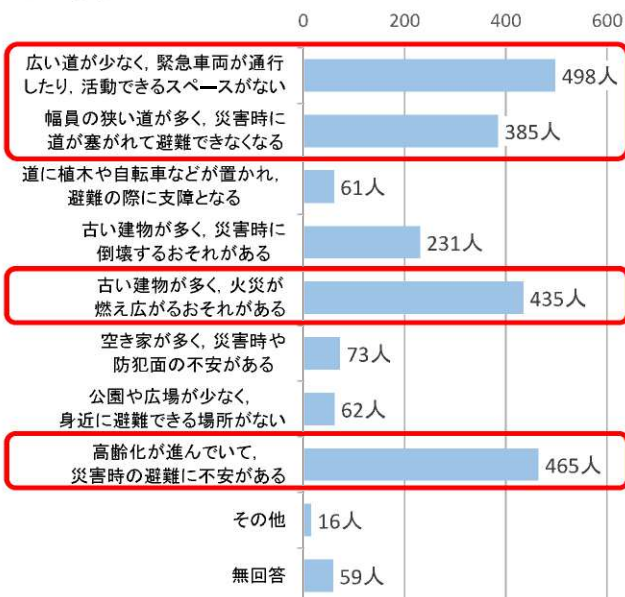
【町内の課題】

- ・「幅員の狭い道や古い木造家屋などが多く、災害時に不安がある」が 441 人（46%）で最も多く、「普段の生活が不便」も 175 人で 18%を占めている。



問 14 昨年に柏野学区で実施した「防災まちあるき」や「意見交換会」では、とりわけ防災上の課題について様々なご意見をいただきました。あなたは、お住まいのご町内について、防災上どのような課題があると感じていますか？

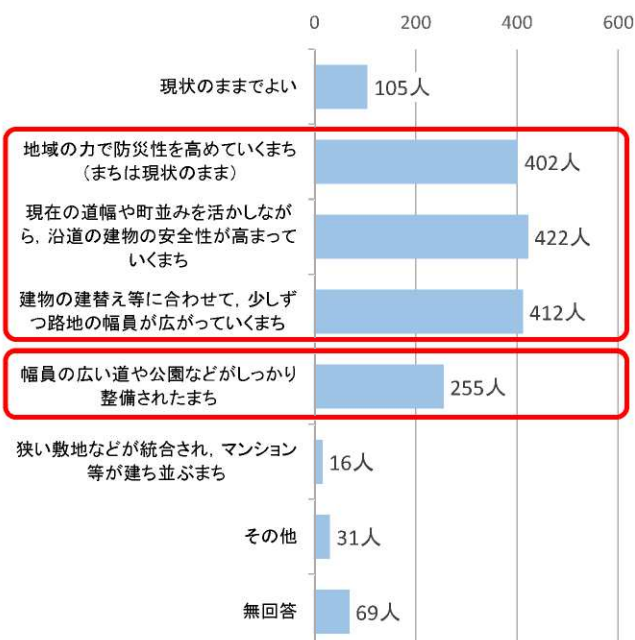
- ・「緊急車両の通行」に不安を感じている人が 498 人で最も多く、次いで「高齢者の避難」が 465 人、「火災の延焼」が 435 人、「避難経路が塞がれる」が 385 人となっている。



🍏 柏野学区の将来についてお答えください。

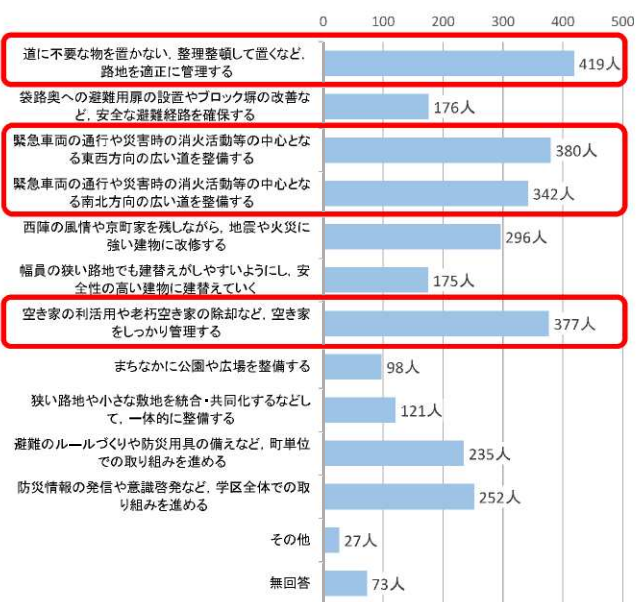
問 15 あなたは、将来、柏野学区がどのようなまちになると良いと思いますか？

- ・「地域の力で防災性を高める」が 402 人、「現在の町並みを活かす」が 422 人、「少しずつ路地の幅員が広がる」が 412 人で、全体として、今のまちの姿を残しながら防災性を高める考えの人が多くなっている。
- ・一方、「広い道や公園が整備されたまち」も 255 人と多い。



問 16 柏野学区の防災上の課題を解決するためには、何が必要だとお考えですか？

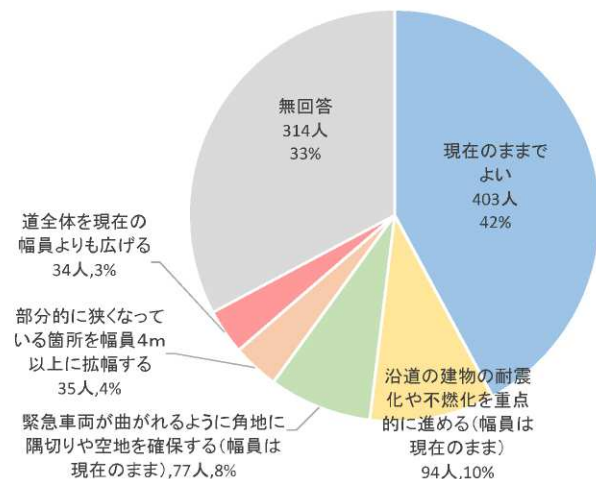
- ・「路地の適正管理」が 419 人で最も多く、「空き家の適正管理」も 377 人と多い。
- ・防災の軸となる広い道の整備に関しては、「東西方向」が 380 人、「南北方向」も 342 人となっており、東西・南北ともに必要性を感じている人が多い。
- ・また、「西陣の風情や京町家を残しながら建物」を改修」も 296 人おり、「町単位」や「学区全体」での取り組みも多くなっている。



問 17 次に挙げる防災上重要な通りについて、将来、どのようになると良いとお考えですか？

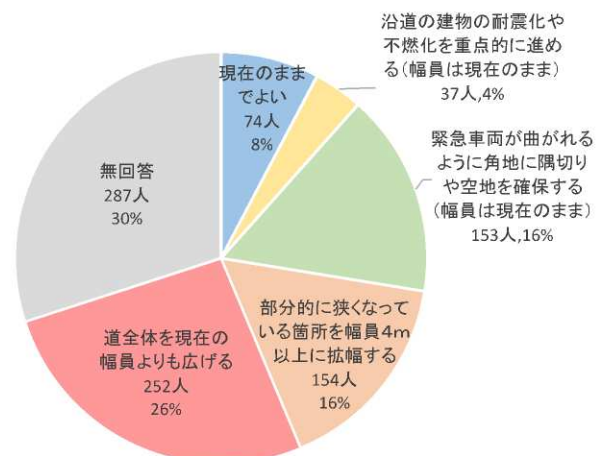
【鞍馬口通】

- ・「現在のままでよい」が 403 人 (42%) で最も多く、次いで「幅員は現在のままで沿道の耐震化・不燃化を進める」の 94 人 (10%) となっており、鞍馬口通に関しては、約 5 割の人が拡幅の必要性を感じていない。



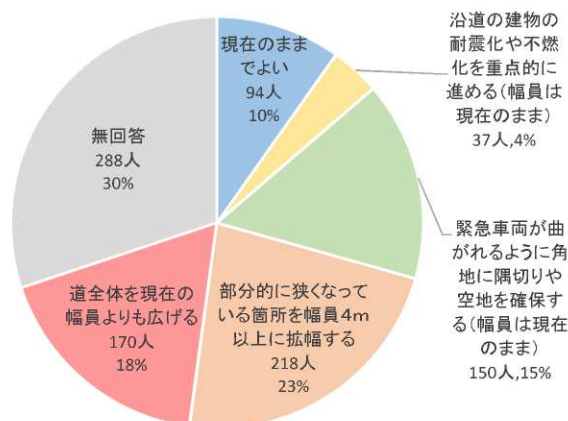
【蘆山寺通】

- ・「道全体を広げる」が 252 人 (26%) で最も多く、次いで「部分的に狭くなっている箇所を拡幅」の 154 人 (16%) となっており、蘆山寺通に関しては、全体の約 4 割の人が拡幅の必要性を感じている。
- ・一方、「幅員は現在のまま」も約 3 割を占めている。



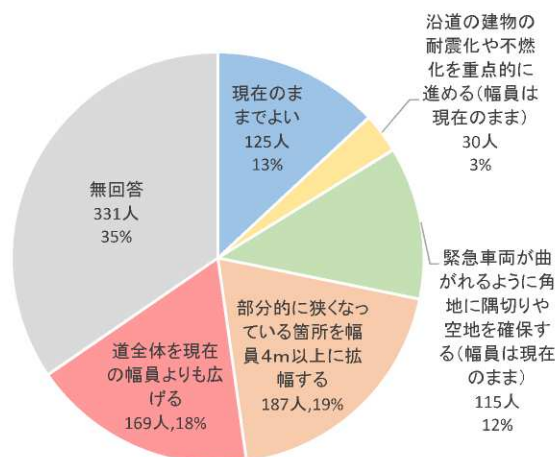
【寺之内通（下柏野公園より西側）】

- ・「部分的に狭くなっている箇所を拡幅」が218人（23%）で最も多く、次いで「道全体を広げる」の170人（18%）となっており、寺之内通に関しては全体の約4割の人が拡幅の必要性を感じている。
- ・一方、「幅員は現在のまま」も約3割を占めている。



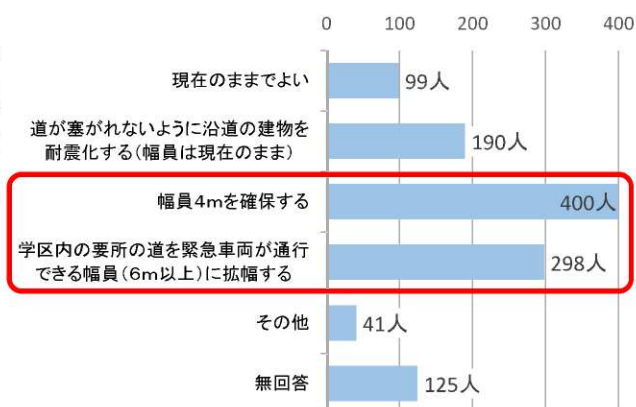
【御前通】

- ・「部分的に狭くなっている箇所を拡幅」が187人（19%）で最も多く、次いで「道全体を広げる」の169人（18%）となっており、御前通に関しては全体の約4割の人が拡幅の必要性を感じている。
- ・一方、「幅員は現在のまま」も約3割を占めている。



問 18 問 17 に挙げた以外の幅員4m未満の道について、将来、どのようになると良いとお考えですか？

- ・「幅員4mを確保」が400人で最も多く、次いで「学区内の要所の道を緊急車両が通行できる幅員（6m以上）に拡幅」の298人となっており、狭い道を拡幅する考えの人が多い。



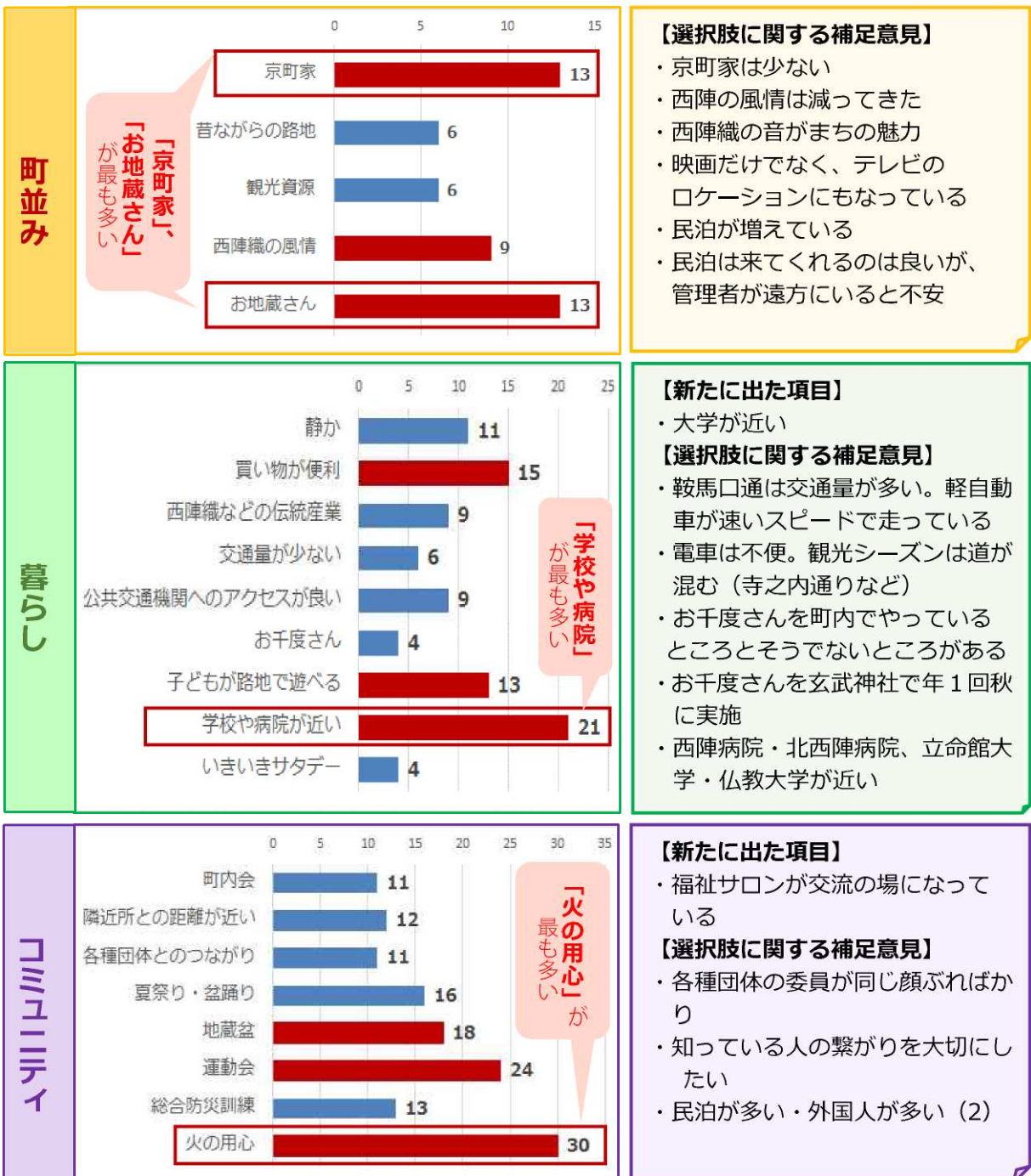
防災まちづくりに関するアンケート報告会のまとめ

1. 報告会の開催概要

地域住民へアンケート結果の周知を図るとともに、「防災まちづくり」に関する意識を高め、具体的に取り組んでもらう機会とすることを目的に、アンケート結果の報告とその結果を踏まえた「防災まちづくり方向性」（案）の説明・意見交換を実施した。

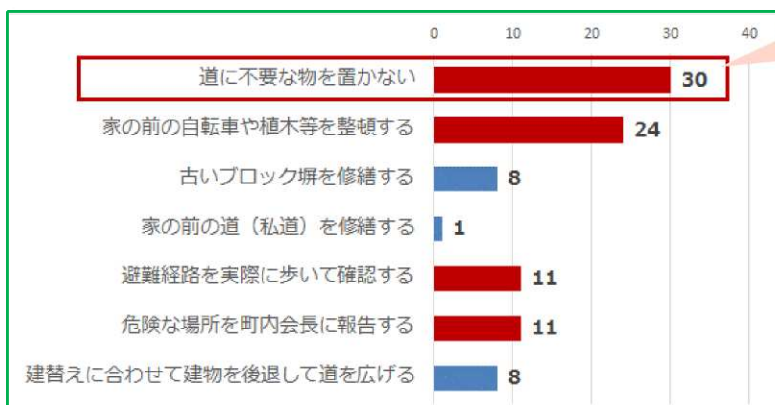
日 時：平成 29 年 2 月 27 日（月） 19 時～20 時 30 分
場 所：柏野小学校 体育館
参加者数：38 名

2. 報告会でいただいたご意見・アイデア等のまとめ 『まちの将来像』について



『みち』の取組について

■自身でできること・取り組むこと



「道に不要な物を置かない」が最も多い



【選択肢に関する補足意見】

- ・道路後退した部分をしっかりと空けておく
- ・高齢者の自宅前の植木の処分
- ・落葉の管理をしてほしい
- ・管理する費用や手間はどうか。行政でお願いできないのか
- ・危険箇所を報告されても困る時がある
- ・夜回りの際に、防災だけでなく、防犯も兼ねて行っている
- ・隅切りの確保を徹底に行う
- ・隣が建替えないと道が広がらない
- ・代替地等がないと道が広がらない
- ・（後退部分の拡幅は）敷地が狭く難しい

■みんな（町内会・学区）でできること・取り組むこと



「無電柱化の働き掛け」が最も多い



【新たに出た取組】

- ・御前通り北側の交通の注意喚起が必要

【選択肢に関する補足意見】

- ・路地の適正管理は個人同士や町内会では伝えにくい
- ・七本松通から鞍馬口通まで道を通すという話があるが、沿道に約 100 軒の家があるため、現実的には難しい
- ・道の整備に行政の財政支援が必要
- ・御前通りの整備は良い事例
- ・南北の道路のクランクを改善する
- ・交差点の角の家は道路整備のポイントとなる
- ・道を修繕するのは難しいので市道認定化を行う
- ・（無電柱化の）ボックスを置くスペースがないのではないか
- ・助成制度の P R が必要

『いえ』の取組について

■自身でできること・取り組むこと

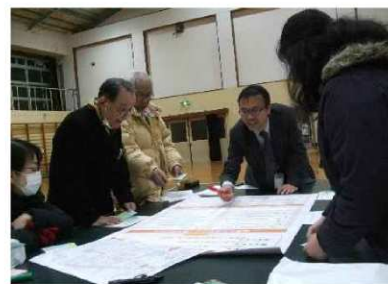
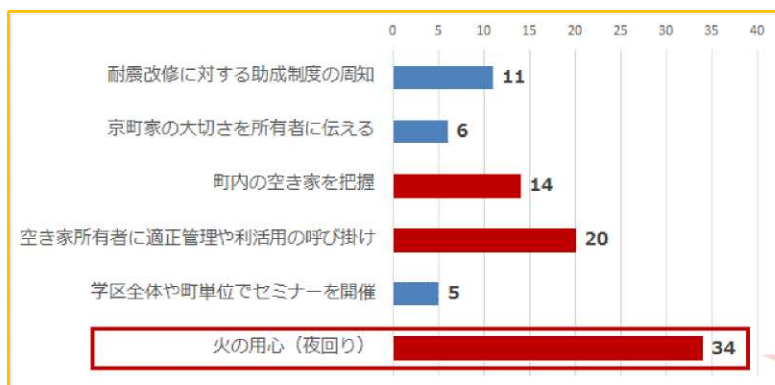


「家の前に燃えやすい物を置かない」が最も多い

【選択肢に関する補足意見】

- ・火が出ないようにする
- ・夜回りで火災等の恐れがある危険な建物を把握している
- ・高齢者が出ていき空き家になる
- ・空き家は増えており、迷惑している
- ・空き家のまま放置するくらいなら、更地にした方がよい
- ・空き家の利活用を勧めると、民泊に流れてしまう
- ・民泊にするほどの良い空き家がない
- ・大学が近く、高齢者の家に若者（学生）を探す
- ・土地・建物の借家人の整理が困難
- ・京町家は連担して残っていると保全される

■みんな（町内会・学区）でできること・取り組むこと



「火の用心（夜回り）」が最も多い

【新たに出た取組】

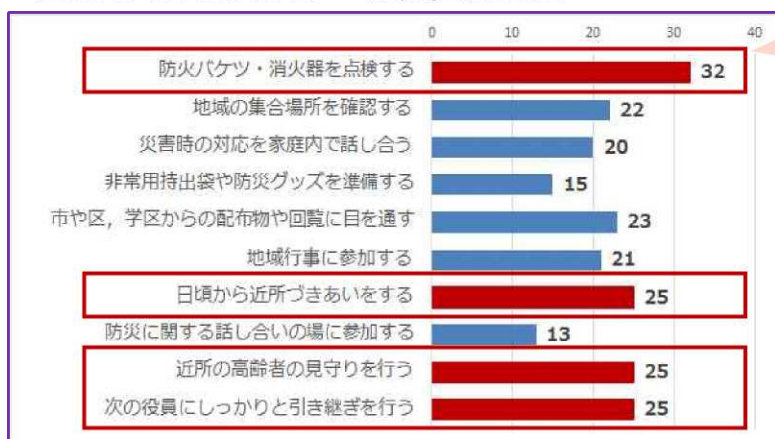
- ・セミナーの参加呼びかけ

【その他のご意見】

- ・地域から情報が集まらないため、空き家を把握できない
- ・空き家把握は個人情報の壁がある

『まち』の取組について

■自身でできること・取り組むこと



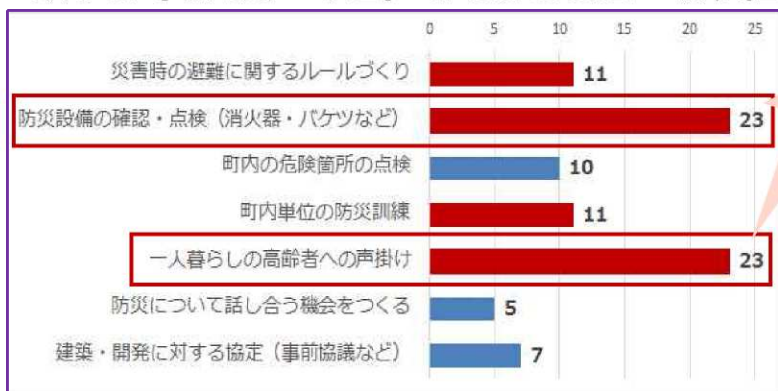
「防火バケツ・消火器を点検する」が最も多い



【選択肢に関する補足意見】

- ・ 消火器等を町内会で点検・申し送りができています
- ・ 地域の集合場所は広くはないが、若い人も知っている
- ・ 町内で高齢者の見守りを行っている
- ・ 広くて、安心な空地だと防災空地になるのではないかと

■みんな（町内会・学区）でできること・取り組むこと



「消防設備の確認・点検」、「一人暮らしの高齢者への声掛け」が最も多い



【新たに出的取組】

- ・ 消防団に入る
- ・ 民泊への対応をみんなで話し合う
- ・ 防災広場の確保

【選択肢に関する補足意見】

- ・ 危険箇所よりも植栽の管理が気になる
- ・ 町内の危険箇所の点検（空き家への対応も）
- ・ 町内単位での防災訓練を一昨年まで実施していたが、予算関係で今は実施していない

- ・ 声を掛けても行事に出席しない人もいます
- ・ 高齢者同士の繋がりはある
- ・ 地域で建築・開発等の情報を把握しにくい
- ・ 建築・開発に関する協定に至らなくても、地域で情報をいかに早く掴むかが重要
- ・ 建築・開発に関するルール化の仕組みができないか

柏野学区防災まちづくり 基本方針の実現に向けた取組の進め方の整理

防災まちづくりの具体的な取組のカテゴリー別整理（凡例）

●まちの課題解決や魅力を高めるための具体的な取組

- 身近な身の回りの実践
- まちのルールづくり
- まちの現状・課題の把握
- 個別具体的な箇所の働き掛け
- 課題解決の方法を知る、対策の進め方の話し合い
- まちの改善

●周知・啓発

- 学区全体への意識啓発
- 学区全体への周知・P R

●取組を支える学区の仕組み（全ての項目に関連）

- 体制づくり、建築・開発の情報把握、資源・資金の確保

「みち」について①

主 体		個 人	町 内 会	学 区	行政や事業者等
基本方針1	道路の部分 拡幅や 全体拡幅	- 千本通から鞍馬口通に入る入口部分のボトルネックが問題であり、取り組んでいくべき - 道が大事なものはみんな分かっている - 蘆山寺通、寺之内通は消防車が入れない - ボトルネックの解消 - 署名や陳情なら協力できる - 行政の姿勢を示すことも大切 - 学区で喚起し、町内を巻き込む	- 沿道の町でまず話し合う ①各通りの目指すべき将来像（幅員・沿道の町並み等）について話し合う - 町内で情報を掴み、学区に情報を上げる - 個人では難しい ③拡幅できそうな所や効果が高い所を探す	- 行政が開催したら役員しか参加しないのでは ②拡幅整備の方法を知る（勉強会等の開催） ⑤沿道住民や土地所有者と拡幅整備の進め方について意見交換を行う ④沿道住民や土地所有に済み替えや拡幅整備に対する意向を確認する（アンケート等）	- 場を持つのは学区、開催するのは行政 - 自治連で実施し、参加を広く呼び掛ける
	沿道の建物の耐震化・防火対策の促進			- 行政だけで訪問すると警戒されるため、地域の協力（町内会等）があるとスムーズになる ①耐震改修の重要性や市の制度を各戸訪問して周知する（耐震ローラー） - 町⇄学区⇄行政での情報や取りまとめがスムーズにできるとよい - 高齢者本人ではなく、その家族に伝える方法が必要 ②耐震改修の重要性を知ってもらおう（セミナー等の開催）	
	交差する道との隅切りの整備		①隅切り部分に物を置かないよう住民に呼び掛ける	- 個人や町内で働き掛けするのは難しいため、学区などの地域全体で話ができるとよい - 呼び掛けている町内あり	- 町では対応しきれない ②角地の土地所有者に隅切り整備を働き掛ける
	無電柱化の取り組み (軒下配線、民地への移設、地中化)	- 個人・町内・学区のできる場合がある - 防災マップに電柱を落とすと、邪魔になっているものが見えてくる	②沿道住民同士で取組箇所や進め方について話し合う	①事業者（関電、NTT等）や行政に働き掛ける	- 個人だと効果が弱い - 地域の要望を町連・自治連がまとめて行政に伝える

「みち」について②

	主 体	個 人	町 内 会	学 区	行政や事業者等
基本方針2	危険箇所の改善			① まちあるき等を実施し、危険箇所等を確認する ・毎年、まちあるきを行い、町内会長等にまちを知ってもらうことが大切	② 所有者等に対して改善を働き掛ける
	袋路の2方向避難の確保	① 袋路の避難の安全性を確認する ② 避難の方法（避難扉の必要性）について沿道住民で話し合う ・言いづらい			③ 所有者等に避難用扉の設置や袋路始端部建物の耐震・耐火改修を働き掛ける ・みんなで学んで対策を考える
	細街路の拡幅整備	④ 建替えに合わせて敷地を後退する	① 路地の将来像について沿道住民で話し合う	② 路地の拡幅整備の方法や補助制度等を知る（勉強会等） ③ 建替えに合わせて拡幅整備するためのルールを考える	
	沿道の建物耐震化・防火対策の促進	(基本方針1に同じ)			
	路地の適正管理	① 自宅の前の道を整理整頓する ② 建替え時に敷地後退した部分を空けておく	③ 沿道住民に道の適正管理を働きかける（チラシの配布、呼び掛け等）		
	建替え時に後退部分をしっかり空けておくルールづくり		② 後退部分の適正管理やルールについて話し合う	① 後退部分の目的や現状の課題等について理解してもらう	
	私道の認定道路(市道)化		② 沿道住民で市道化に向けて話し合う（取組の進め方等）	① 市道化の方法やメリット等を知る（勉強会等）	
基本方針3	町並みを維持・更新しやすい環境づくり		① 町並みを残していきたい路地を考える ③ 路地の将来像やあり方について沿道住民で話し合う	② 町並み保全の方法・制度を知る（勉強会等）	

「いえ」について

	主 体	個 人	町 内 会	学 区	行政や事業者等
基本方針4	建物の耐震化・防火対策の促進	(基本方針1に同じ)			
	建物の中及びその周囲の安全対策		①建物の安全対策の方法について啓発を行う（チラシ配布等） ②建物の安全対策に係る器具等の設置を働き掛ける（家具の転倒防止器具、住宅用火災報知機、感震ブレーカーの設置） ③火の用心（夜警）を実施する		
基本方針5	空き家の適正管理	①空き家の修繕や維持管理をする ・風通しくらいは個人でできる	②町内の空き家の状況を確認する ・所有者が分からない場合は行政に繋ぐ（市と連携） ・町家風のは民泊に利用される（学区に約30軒あり）	③空き家所有者に定期的な管理を呼び掛ける ④空き家対策についてのセミナー等を開催する ・町内で調べ、学区でまとめる ・主催は学区。講師は行政	・持ち主が分かっているにもかかわらずなかなか言えない ・まずは町内会長が呼び掛ける
	空き家発生の予防、空き家の利活用やその際のルールづくり		・自治連・町連が動く必要がある ・ゲストハウスの把握が必要 ・民泊が増えている ・民泊業者と協定を結んでいる町内会あり（工事中の現場に押しかけて管理者につないでもらう）	②空き家所有者や民泊業者との関係づくり（町内会への加入、連絡先の確認、協定等） ①空き家を地域で活用する（集会所等） ・活用するには、行政のバックアップが必要 ・活用するかどうかは、所有者の判断による ・年1回の運動会後に集まれる場所が欲しい ・維持管理の責任が心配。難しい	
	老朽化した空き家への対応	③老朽空き家を改善・除却する ・まずは所有者にやってもら。それでも難しい場合は、最終的には行政が改善・除却する	②管理状態の悪い空き家の情報を市と共有する ・理想は町内会だが、現実には個人や学区 ・町内会と学区の連携が重要 ・まちあるきを年に1回実施し、新しい情報を把握したり、それを共有したりする	①管理状態の悪い空き家を改善するよう所有者に指導する ・指導するのは行政	
基本方針6	京町家の保全・継承		①まちあるきを実施し、まちの魅力を再発見・再確認 ②京町家所有者に維持管理や保全、活用を働きかける（チラシ配布や呼び掛け等）	③京町家に関する市の助成制度をPRする ④京町家保全の取組に関するセミナー等を開催する	

「まち」について

	主 体	個 人	町 内 会	学 区	行政や事業者等
基本方針7	既存の空き地の有効活用	①学区内の空き地の状況を把握する	②空き地の土地所有者等へ協力を呼び掛ける		
	延焼防止や一時避難等に役立つポケットパークの確保	②学区内で防災広場にできそうな箇所を探す	④防災広場の管理方法を話し合う	③空き地の土地所有者等へ協力を呼び掛ける	①市の助成制度を知る（老朽建築物除却、まちなか commons）
	柏野の雰囲気と調和する整備のあり方の検討	・消火器・バケツは町内で備える ・消火器の位置をマップに落とす ・非常ベルを設置したり、全家庭に消火バケツを配布した町内あり	・不法駐車チェックもできる【交対協】 ・やり方が分かってきたら、町内で自主的にやってもよい ・町と学区が連携 ・声掛けは学区と行政で、見回りは町内でできる	①路地や建物が集中しているエリア内の防災上の現状・課題を知る ②路地や建物が集中しているエリア内の目指すべき将来像について住民で話し合う	③密集市街地の再整備の方法を知る（勉強会） ④路地や建物が集中しているエリア内に住んでいる住民の将来意向を把握する ⑤取組の実現に向けた計画をつくる
基本方針8	防災意識を高める、防災上の課題を確認・点検する	①非常用持ち出し袋や非常食等を備える	②消火器や消火バケツ等を備える	③まちあるき等により、身近な危険箇所を確認する	⑦防災訓練や学区イベント等を通じて啓発活動を行う
	・活動予算をどうするのかが問題 ・高齢者の把握【民生児童委員】	・場所は町内で共有している ・町内で「地域の集合場所」を決めている（中柏野西南町：鞍馬口通を挟んで南北に分かれているため、集まるのが難しい）	④「地域の集合場所」の安全性等を確認する ⑤町内単位で災害時に役立つ情報を記載した防災マップを作成する	・町内で防災に対する引継ぎが不十分。 ・次の役員に引継ぎにくい部分がある ・任期が1年なのが問題。2年任期の方法もあるが、メリット・デメリットがある ・役員となる人は固定している。新しい人が入る必要がある	⑧防災訓練への参加者を増やす工夫する ⑨防災まちづくりに関する取組や地域の情報を次の役員にしっかりと引き継ぐ
	災害時の避難に関するルールづくり	①災害時の避難経路やその安全性を確認する	②安否確認や避難誘導の方法等について話し合う	⑥防災まちづくりについて学ばせセミナーを開催する	・講師は行政も ・工夫は学区でやってほしい ・町内で声掛けが必要
基本方針9	町内会への加入促進、地域行事等への参加促進	①近所付き合いを大切に、日頃からの挨拶や声掛けを実施する	②地域行事への参加を呼び掛ける	③町内会に加入するメリットを伝える	・強制的に加入してもらうのは難しい ・メリットを伝えにくい。若い人向けにアピールが必要 ・高齢であることを理由に町内会を抜ける人もいる ・町費は払うが、活動への不参加や役を引き受けられない人がいる
	継続的かつ機動的に防災まちづくりを進めるための体制づくり	・できている町内とそうでない町内がある	・人集めを継続する。役が終わっても辞めさせない。PTAからおやじの会へ活動を継続【おやじの会】	①防災まちづくりへの関心を高める ②防災まちづくりに関わる人を増やす	③先進事例や他都市の事例等について学ぶ（勉強会等）
	学区内での開発等に対する仕組みづくり			②地域の相談窓口をつくる	①ルールのあり方や他都市の事例等について学ぶ（勉強会等）
	防災まちづくりの資源を確保する仕組みづくり			②資源や資金の受け皿づくり	①ルールのあり方や他都市の事例等について学ぶ（勉強会等）

編集・発行人
柏野学区自治連合福祉協議会